



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail:lets@some.jp

平成27年8月

うるわし通信

桜井大火から60年の夏です

今年で戦後70年ですが、60年前の昭和30年7月16日午後1時50分頃、桜井で未曾有の大
火災が発生しました。大字谷(谷新町付近)から出火し、おりからの台風8号の強風にあおら
れ、火はたちまち付近一帯の木材工場や民家に燃え広がり、ようやく午後7時頃に鎮火しま
した。焼失面積25,000坪(甲子園球場一つ分)、罹災世帯207戸、罹災者861人、損害額約
10億円にのぼる大火災でした。

当時の話を聞くと、連日の猛暑による水不足で十分な消火活動が行えず、桜井小学校の
プール(現在の和信信用金庫別館付近)の水も使い果たし、国鉄による水タンク車が奈良か
ら到着してようやく鎮火したそうです。

この未曾有の災害を教訓として、昭和32年の上水敷設と同時に桜井地区に消火栓130基
が設置され、昭和36年7月には、消防職員6名、ポンプ車1台をもって常設消防本部を設置
し、昭和38年8月からは救急業務が開始されました。

仁王堂小西橋の東側に「愛宕さん」があります、「桜井大火」を二度と繰り返さないた
めに火伏せ(防火)の神様が祀られていて、8月23・24日にお祭りが行われています。

昨年の5月には、桜井市本町通りで、住宅や空き店舗など10数棟が焼ける火災が発生し
ました。災害は忘れた頃にやってきます、改めて火災の恐ろしさを再認識する、夏です。

うるわしの桜井をつくる会常任理事 ひがし 俊克



みえ県民交流センター・松阪市市民活動センター視察レポート

青木 なぎさ

先般（7/4）は、かねてより交流拠点及びエルト2階の活用についての検討を重ねてくださっていた桜井市本町通・周辺まちづくり協議会さんの提案から「みえ県民交流センター（みえ市民活動ボランティアセンター）」と「松阪市市民活動センター」を視察する市民グループに同行させていただきました。

「みえ県民交流センター」は、2001年アスト津3階にオープンし、指定管理者である「特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター」が運営をしております。

スタッフは13名、うち専任は7名での運営です。開館時間 9:00~22:00、休館日 12/29~1/3と、利用者さんの多様なニーズに対応した形の運営をしております。

事業内容は、市民活動の促進と国際化の推進、団体の運営と収益基盤の確立のためのイベント開催、施設の管理運営、市民活動に関する情報の受発信、地域NPO支援組織の連携交流の促進とあり、「中間支援組織」としてのあり方を模索しその実現に向けて積極的に活動されています。

フロアは明るく、広々としてとても気持ちの良い空間になっていました。県の特産品のPRスペースがあるのも和やかで、長くいても良さそうな雰囲気を出していました。

スタッフの運用も、積極的な外部への研修派遣を含めしっかりと教育を行い、設備機器だけではない臨機応変な受け入れ体制を作る努力をされていると思いました。

こちらは「県」単位の活動支援をされるためでしょうが、アスト津3階フロアのほぼ全面を使用されている事、交流センター事務局と隣り合わせ県の窓口（他文化共生課、男女共同参画・NPO課）と三重県ボランティアセンター、三重県国際交流財団が軒を連ねている点が印象的でした。

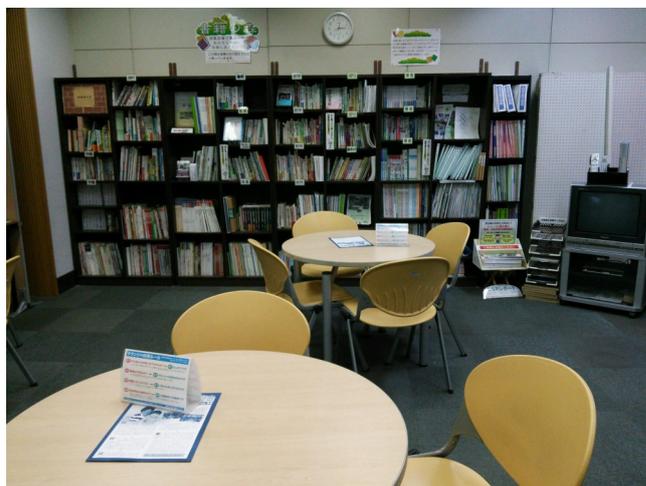


続いての視察は「松阪市市民活動センター」です。

こちらは指定管理を取るために設立された団体「特定非営利活動団体 Mブリッジ」が運営されています。NPO法人ですが、コミュニティビジネス、CSRの推進、出版、デザイン、IT、NPO会計など専門的な知識や技術を持つスタッフさんがそれぞれのスキルを活かしながら事業展開されているというお話がとても興味深いものでした。

専門職といえるような本業をお持ちでありながら、空き時間をすべてこの活動センターのために使っているとおっしゃるくらいの熱意と向上心を持って活動しておられるのです。理事、副理事のお二方とも個性豊かで、このセンターの利用者やイベントの参加者に楽しく交流の場を提供しながら運営資金を捻出しているという仕組み作りの巧みさを感じました。

こちらもカリヨンプラザ3階のフロアを全面使用されていますが、建物自体が小ぶりなため少人数用の会議室と大会議室とをしっかりと区切って活用しておられました。管理者と利用者が、一緒に助け合って運営しているという感じが端々に感じられました。



たくさんのアンケート結果も踏まえて私がこの視察について思ったのは、どちらのセンターにも共通して言えるのは「いかにして利用者さんの多様なニーズに答えていくのか」「自分達に何ができるのか」ということを常に模索されているという意欲的な面と、「いかにしてセンターの運営資金を確保していくのか」という終わることのない不安を抱えているという面が常にセットで存在しているのだという事です。

「対応」とはすなわち人材のスキル・レベル・所要（対応）時間の豊富さ、「採算」とは物質的な消耗（補充とメンテナンス）と人件費の節約が大きなポイントであると思われます。この点は、今後の「桜井市市民活動交流拠点」の維持・継続、ひいては内容の充実に関しても避けて通ることはできない課題であり団体の皆さんとともに考えていきたいと思えます。

今回は、このような発信の機会をいただき誠にありがとうございました。

お知らせ

●中川五郎ライブinさくらい

戦争へと向かう日本、愛と反戦のフォークシンガーが今再び立ち上がる

- ①日 時 8月12日(水)午後2時00分から
場 所 桜井市民会館ロビー
入場料 無料
主催 中川五郎ライブinさくらい実行委員会
問い合わせ先 TEL: 080-5702-0644



- ②日 時 8月12日(水)午後6時30分から
場 所 まほろばセンター多目的ホール
入場料 ¥1,000(ワンドリンク付)
主催 中川五郎ライブinさくらい実行委員会
問い合わせ先 いたう TEL: 090-2356-4748

●桜井市夏季大学

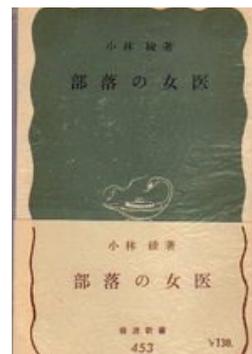
日 時 8月24日(月)午後1時00分から
場 所 桜井市立図書館研修室

- ①講演「三輪山、巨大な神座」 講師：上野誠(奈良大学文学部教授)
②ミニステージ「大和路の恋」他 歌手：水森かおり(桜井市観光親善大使)
問い合わせ先 桜井市観光協会 TEL: 0744-42-7530

●図書館友の会

8月の読書会は、『部落の女医』小林綾著を読みます。
1950年大福に赴任した新米の女医さん。ムラの風習に驚き、呆れ、
やがてそれを受け入れていく心あたたまる交流記。
日傭健保の不合理に直面し、行政と対立。未開放部落は孤立して
ないことを知り、うれしく思う日々など……

日 時 8月25日(火)午後1時30分から
場 所 まほろばセンター市民活動交流拠点
問い合わせ先 浅川 肇 TEL: 090-1961-6345
友の会会員以外の参加も歓迎します。



後記 1945年8月15日。中学1年生のわたしは終戦の詔勅を聴いた。突然のことで当初は理解に苦しんだが、やがて敗戦を認める詔勅と知った。

いま思えば、この大決断は正しかった。天皇制の議論はしばらく措くとして。天皇はこの時、国の元首という建て前よりも、民の家父長的立ち場に立った。

国という強力な軍隊を包含する権力の名誉・威信よりも、子孫を戦争にまき込ませず、子孫の未来を守る道を選択した。

国と民とは、ぎりぎりの際には対立する。愛国よりも愛民を選んだ8月15日の決断は正しかった。いま、主権はわたしたち国民にあるが、愛国を掲げて国際社会を席捲するよりも、愛民を地上にあまねく及ぼすべきだと思ふ。
(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345